

<委員>

氏名	所属等
相川 直樹	財団法人国際医学情報センター理事長
池上 直己	慶應義塾大学医学部医療政策・管理学教授
伊藤 澄信	独立行政法人 国立病院機構本部医療部研究課長
木下 勝之	医療法人社団九折会 成城木下病院理事長
熊本 一朗	鹿児島大学医療情報管理学教授
小山 信彌	東邦大学医療センター大森病院心臓血管外科部長
齊藤 壽一	社会保険中央総合病院名誉院長
酒巻 哲夫	群馬大学医療情報部教授
佐藤 博	新潟大学教授・医歯学総合病院薬剤部長
嶋森 好子	慶應義塾大学看護医療学部教授
辻村 信正	国立保健医療科学院次長
難波 貞夫	富士重工業健康保険組合総合太田病院病院長
◎ 西岡 清	横浜市立みなと赤十字病院院長
○ 原 正道	横浜市病院事業管理者病院経営局長
松田 晋哉	産業医科大学医学部公衆衛生学教授
山口 俊晴	癌研究会有明病院消化器外科部長
山口 直人	東京女子医科大学医学部衛生学公衆衛生学第二講座主任教授
吉田 英機	昭和大学医学部名誉教授

◎ 分科会長 ○ 分科会長代理

<オブザーバー>

氏名	所属等
邊見 公雄	赤穂市民病院長

平成20年度「DPC導入の影響評価に関する調査結果および評価」

最終報告概要(案)

平成21年5月14日

診療報酬調査専門組織DPC評価分科会

分科会長 西岡 清

第1 調査の目的

DPC導入の影響評価を行うために、診断群分類の妥当性の検証及び診療内容の変化等を評価するための基礎資料を収集することを目的とする。

第2 調査方法

平成20年7月から12月までの退院患者について、「診療録情報(診療録に基づく情報)」及び「レセプト情報(診療報酬請求明細書に基づく情報)」等を収集する。

第3 調査対象病院

- 平成15年度DPC対象病院 82病院
- 平成16年度DPC対象病院 62病院
- 平成18年度DPC対象病院 216病院
- 平成20年度DPC対象病院 358病院
- 平成18,19年度DPC準備病院 704病院
- 平成20年度DPC準備病院 137病院

第4 分析対象データについて

厚生労働省が受領した7月から12月の退院患者に係るデータ(約460万件)のうち、包括払いの対象とならない病棟への移動があった者等を除外したデータ(約423万件)を分析の対象とした。また、平成16年度~19年度の調査データについても同時期のデータを用いて比較対象とした。

## 第5 主な結果

### 1 平均在院日数

- (1) 平均在院日数の年次推移 (表1 参考資料1 p.22~p.42)  
 全ての病院類型において、平均在院日数は減少傾向にあった。

【表1】在院日数の平均の年次推移

病院類型	平成17年	平成18年	平成19年	平成20年
平成15年度 DPC対象病院	18.31	17.38	16.78	16.15
平成16年度 DPC対象病院	15.15	14.75	14.60	14.32
平成18年度 DPC対象病院	15.48	14.52	14.50	14.19
平成20年度 DPC対象病院	.	15.35	14.98	14.18
平成18,19年度 DPC準備病院	.	.	15.42	15.03
平成20年度 DPC準備病院	.	.	.	15.58

- (2) 平均在院日数の減少の要因 (参考資料1 p.43~p.62)

平均在院日数の減少の要因を「診断群分類毎の在院日数の変化による影響」と「患者構成の変化による影響」とに分けて分析すると、主に診断群分類毎の在院日数の減少によるものと考えられた。

### 2 入院経路

- (1) 救急車による搬送の率・患者数の年次推移 (表2 参考資料1 p.63)  
 救急車による搬送の率は、平成15年度DPC対象病院においては、やや減少傾向であるが、その他の病院類型において概ね横ばいであった。

【表2】救急車による搬送の率・患者数

病院類型	平成16年	平成17年	平成18年	平成19年	平成20年
平成15年度DPC 対象病院 (割合)	8.3%	7.5%	7.4%	7.3%	6.7%
(1施設当たり患者数)	78.8	74.3	78.4	79.3	75.1
平成16年度DPC 対象病院 (割合)	12.7%	12.2%	12.3%	12.7%	12.1%
(1施設当たり患者数)	70.5	67.0	69.4	71.0	68.7
平成18年度DPC 対象病院 (割合)	.	13.3%	13.7%	14.0%	13.6%
(1施設当たり患者数)	.	78.4	85.4	88.5	87.6
平成20年度DPC 対象病院 (割合)	.	.	13.3%	13.0%	12.6%
(1施設当たり患者数)	.	.	59.1	58.3	58.4
平成18,19年度DPC 準備病院 (割合)	.	.	.	13.1%	12.7%
(1施設当たり患者数)	.	.	.	41.1	41.3
平成20年度DPC 準備病院 (割合)	.	.	.	.	13.5%
(1施設当たり患者数)	.	.	.	.	32.1

(2) 緊急入院の率・患者数の年次推移 (表3 参考資料1 p.64)

緊急入院の率は、平成16年度DPC対象病院は減少傾向であるが、それ以外の病院類型では増加から横ばい傾向であった。

1施設1ヶ月あたりの緊急入院の患者数は、平成16年度DPC対象病院は減少傾向であるが、それ以外の病院類型では増加傾向であった。

【表3】緊急入院の率・患者数

病院類型	平成16年	平成17年	平成18年	平成19年	平成20年
平成15年度DPC 対象病院 (割合)	27.3%	25.8%	25.1%	25.2%	25.0%
(1施設当たり患者数)	259.8	253.7	266.2	274.3	278.5
平成16年度DPC 対象病院 (割合)	46.2%	46.0%	47.5%	47.0%	45.7%
(1施設当たり患者数)	256.2	252.9	267.9	263.8	260.9
平成18年度DPC 対象病院 (割合)	.	45.8%	46.3%	46.4%	46.4%
(1施設当たり患者数)	.	268.9	289.1	293.1	298.4
平成20年度DPC 対象病院 (割合)	.	.	48.6%	48.3%	48.5%
(1施設当たり患者数)	.	.	217.0	216.7	224.8
平成18,19年度DPC 準備病院 (割合)	.	.	.	49.2%	49.3%
(1施設当たり患者数)	.	.	.	154.3	159.7
平成20年度DPC 準備病院 (割合)	.	.	.	.	51.7%
(1施設当たり患者数)	.	.	.	.	123.3

(3) 他院より紹介有りの率・患者数の年次推移 (表4 参考資料1 p.65)

他院より紹介有りの率及び1施設当たりの患者数は、平成15年度DPC対象病院を除いた病院類型では増加傾向であった。

【表4】他院より紹介有りの率・患者数

病院類型	平成16年	平成17年	平成18年	平成19年	平成20年
平成15年度DPC 対象病院 (割合)	41.2%	41.4%	42.6%	43.7%	42.8%
(1施設当たり患者数)	392.6	407.8	452.1	474.8	477.3
平成16年度DPC 対象病院 (割合)	32.4%	36.2%	36.2%	38.1%	40.8%
(1施設当たり患者数)	179.7	199.3	204.4	213.9	232.2
平成18年度DPC 対象病院 (割合)	.	37.4%	34.7%	35.2%	37.2%
(1施設当たり患者数)	.	219.9	217.0	222.1	239.3
平成20年度DPC 対象病院 (割合)	.	.	35.5%	37.2%	37.8%
(1施設当たり患者数)	.	.	158.4	167.1	174.7
平成18,19年度DPC 準備病院 (割合)	.	.	.	37.0%	39.3%
(1施設当たり患者数)	.	.	.	115.9	127.2
平成20年度DPC 準備病院 (割合)	.	.	.	.	35.7%
(1施設当たり患者数)	.	.	.	.	85.0

3 退院先の状況(表5、6 参考資料1 p.66)

(1) 自院の外来の割合の年次推移

自院の外来の割合は、平成16年度DPC対象病院、平成18年度DPC対象病院は減少傾向であり、それ以外の病院類型では横ばい傾向であった。

【表5】退院先の状況「自院の外来」

病院類型	平成16年	平成17年	平成18年	平成19年	平成20年
平成15年度DPC対象病院(割合)	82.59%	83.55%	84.20%	84.68%	84.29%
平成16年度DPC対象病院(割合)	74.59%	74.10%	72.19%	71.71%	69.50%
平成18年度DPC対象病院(割合)	.	74.97%	75.47%	75.11%	73.34%
平成20年度DPC対象病院(割合)	.	.	74.32%	74.90%	75.47%
平成18,19年度DPC準備病院(割合)	.	.	.	75.09%	74.58%
平成20年度DPC準備病院(割合)	.	.	.	.	72.51%

(2) 転院の割合の年次推移

転院の割合については、平成15年度DPC対象病院は減少傾向であるが、平成16年度DPC対象病院、平成18年度DPC対象病院は増加傾向であり、それ以外の病院類型では横ばい傾向であった。

【表6】退院先の状況「転院」

病院類型	平成16年	平成17年	平成18年	平成19年	平成20年
平成15年度DPC対象病院(割合)	4.73%	4.39%	4.25%	4.38%	4.19%
平成16年度DPC対象病院(割合)	4.74%	4.91%	5.31%	5.27%	5.78%
平成18年度DPC対象病院(割合)	.	5.31%	5.39%	5.41%	5.69%
平成20年度DPC対象病院(割合)	.	.	4.92%	4.99%	4.95%
平成18,19年度DPC準備病院(割合)	.	.	.	4.99%	5.05%
平成20年度DPC準備病院(割合)	.	.	.	.	5.94%

4 退院時転帰の状況（表7 参考資料1 p.67）

(1) 治癒・軽快の割合

治癒及び軽快を合計した割合は全ての病院類型においてほぼ横ばい傾向であった。なお、治癒の割合は平成16年度DPC対象病院、平成18年度DPC対象病院においては増加傾向にあった。

【表7】退院時転帰の状況「治癒・軽快」

病院類型		平成16年	平成17年	平成18年	平成19年	平成20年
平成15年度DPC 対象病院（割合）	治癒	6.52%	6.56%	5.10%	5.05%	4.45%
	軽快	73.08%	72.45%	74.10%	74.17%	74.19%
	治癒+軽快	79.60%	79.01%	79.20%	79.22%	78.63%
平成16年度DPC 対象病院（割合）	治癒	8.03%	5.47%	4.27%	3.64%	9.77%
	軽快	73.70%	76.14%	77.88%	78.92%	72.22%
	治癒+軽快	81.73%	81.61%	82.15%	82.55%	81.99%
平成18年度DPC 対象病院（割合）	治癒	・	8.85%	6.91%	4.81%	7.65%
	軽快	・	71.72%	74.69%	77.23%	74.14%
	治癒+軽快	・	80.57%	81.60%	82.04%	81.79%
平成20年度DPC 対象病院（割合）	治癒	・	・	8.76%	7.04%	7.21%
	軽快	・	・	71.49%	73.28%	73.94%
	治癒+軽快	・	・	80.24%	80.33%	81.14%
平成18,19年度DPC 準備病院（割合）	治癒	・	・	・	7.47%	7.31%
	軽快	・	・	・	72.54%	72.60%
	治癒+軽快	・	・	・	80.01%	79.91%
平成20年度DPC 準備病院（割合）	治癒	・	・	・	・	8.93%
	軽快	・	・	・	・	70.92%
	治癒+軽快	・	・	・	・	79.85%

5 再入院率（表8、9 参考資料1 p.68～p.88）

(1) 再入院の割合の年次推移

再入院の割合は、全ての病院類型で増加傾向であった。

【表8】再入院率「再入院の割合」

病院類型	平成17年	平成18年	平成19年	平成20年
平成15年度DPC 対象病院（割合）	13.03%	13.60%	13.89%	14.50%
平成16年度DPC 対象病院（割合）	12.38%	12.88%	13.13%	13.55%
平成18年度DPC 対象病院（割合）	11.98%	12.50%	12.68%	13.14%
平成20年度DPC 対象病院（割合）	・	12.02%	12.56%	13.37%
平成18,19年度DPC 準備病院（割合）	・	・	12.32%	12.95%
平成20年度DPC 準備病院（割合）	・	・	・	12.14%

(2) 同一疾患での6週間以内の再入院の割合の年次推移

同一疾患での6週間以内の再入院の割合は、全ての病院類型で増加傾向であった。

【表9】再入院率「同一疾患での6週間以内の再入院」

病院類型	平成17年	平成18年	平成19年	平成20年
平成15年度DPC 対象病院（割合）	6.83%	7.24%	7.43%	7.93%
平成16年度DPC 対象病院（割合）	5.92%	6.30%	6.54%	6.92%
平成18年度DPC 対象病院（割合）	5.68%	5.88%	6.12%	6.43%
平成20年度DPC 対象病院（割合）	・	5.57%	6.11%	6.48%
平成18,19年度DPC 準備病院（割合）	・	・	6.06%	6.60%
平成20年度DPC 準備病院（割合）	・	・	・	5.76%

6 患者構成（表10 参考資料1 p.89）

MDC別の患者の構成割合は、全ての病院類型でMDC06「消化器疾患、肝臓・胆道・膵臓疾患」が最も高い割合を占めており、近年の患者構成の割合には大きな変化は見られなかった。

【表10】患者構成

MDC	平成15年度 DPC対象病院		平成16年度 DPC対象病院		平成18年度 DPC対象病院		平成20年度 DPC対象病院		平成18,19年度 DPC準備病院		平成20年度 DPC準備病院	
	平成19年	平成20年	平成19年	平成20年	平成19年	平成19年	平成20年	平成20年	平成19年	平成20年	平成19年	平成20年
01	6.46%	6.06%	6.30%	6.43%	6.81%	6.68%	6.30%	6.36%	6.75%	6.65%	・	7.40%
02	8.46%	8.66%	4.07%	3.99%	3.84%	3.99%	4.33%	4.41%	3.85%	3.80%	・	3.80%
03	5.15%	5.02%	4.06%	4.00%	4.23%	4.06%	4.43%	4.14%	3.98%	3.86%	・	3.66%
04	8.03%	7.90%	11.84%	11.32%	11.93%	11.72%	12.50%	12.39%	12.49%	12.26%	・	12.22%
05	9.11%	9.05%	10.32%	10.31%	11.17%	11.38%	9.84%	10.01%	9.79%	9.90%	・	10.44%
06	18.98%	19.49%	22.26%	23.04%	22.71%	22.97%	23.01%	23.09%	23.91%	24.22%	・	24.57%
07	8.05%	8.29%	5.37%	5.35%	5.15%	5.21%	5.20%	5.31%	5.29%	5.30%	・	5.79%
08	1.33%	1.29%	1.15%	1.14%	1.11%	1.07%	1.27%	1.21%	1.20%	1.17%	・	1.11%
09	1.61%	1.63%	1.35%	1.39%	1.30%	1.26%	1.23%	1.21%	1.30%	1.28%	・	0.99%
10	3.93%	3.80%	2.98%	2.93%	2.95%	2.94%	3.18%	3.01%	3.25%	3.13%	・	3.01%
11	7.39%	7.35%	8.45%	8.47%	7.85%	7.97%	8.17%	8.14%	7.62%	7.62%	・	6.50%
12	8.97%	8.97%	7.32%	7.51%	7.03%	6.88%	6.23%	6.14%	6.04%	6.09%	・	5.67%
13	3.02%	3.00%	2.67%	2.58%	2.38%	2.36%	1.97%	2.22%	1.77%	1.78%	・	1.57%
14	3.70%	3.70%	2.16%	2.19%	1.98%	1.92%	2.01%	1.98%	1.92%	1.91%	・	1.96%
15	0.68%	0.61%	1.82%	1.52%	1.79%	1.58%	2.21%	1.75%	2.30%	2.02%	・	2.13%
16	3.34%	3.28%	6.14%	6.10%	6.20%	6.24%	6.59%	6.67%	7.14%	7.18%	・	7.54%
17	0.06%	0.17%	0.07%	0.19%	0.08%	0.22%	0.08%	0.28%	0.03%	0.33%	・	0.43%
18	1.72%	1.73%	1.66%	1.55%	1.51%	1.57%	1.46%	1.68%	1.38%	1.49%	・	1.21%

(参考)

MDC01	神経系疾患	MDC10	内分泌・栄養・代謝に関する疾患
MDC02	眼科系疾患	MDC11	腎・尿路系疾患及び男性生殖器系疾患
MDC03	耳鼻咽喉科系疾患	MDC12	女性生殖器系疾患及び産褥期疾患・異常妊娠分娩
MDC04	呼吸器系疾患	MDC13	血液・造血器・免疫臓器の疾患
MDC05	循環器系疾患	MDC14	新生児疾患、先天性奇形
MDC06	消化器系疾患、肝臓・胆道・膵臓疾患	MDC15	小児疾患
MDC07	筋骨格系疾患	MDC16	外傷・熱傷・中毒
MDC08	皮膚・皮下組織の疾患	MDC17	精神疾患
MDC09	乳房の疾患	MDC18	その他

第6 まとめ

全ての病院類型において、平成19年度までと同様に、平均在院日数は減少傾向であったが、その要因は、患者構成の変化によるものではなく、診断群分類毎の平均在院日数の減少によるものであった。

一方、緊急入院及び他院からの紹介の患者数は、横ばいから増加傾向であった。

これらのことから、重症度の高い患者を避けるような患者選別の傾向は見られておらず、診療内容に悪影響は認められないものと考えられる。

ただし、救急車による搬送の率・患者数については、一部の種類の病院では、平成20年度はやや減少しており、今後も注視していくことが必要である。

また、退院時転帰の状況においては、治癒及び軽快を合計した割合が横ばいであり、急性期としてある程度病態が安定した時点までの入院医療を反映しているものと考えられる。

以上のことから、DPCにより、質の確保はされつつ医療の効率化が進んでいるものと考えられる。

また、これまで増加傾向であった再入院率については、平成20年度も引き続き増加傾向がみられた。平成20年度改定において、同一疾患での3日以内の再入院（病棟間の転棟に伴う再転棟も含む）については、1入院として扱うように算定ルールを見直したところであり、この影響について、今後も注視していくことが必要である。